

茨木市議会議員

あびこ浩子

ゆめ・みらい通信



連絡先：（あびこ浩子事務所）茨木市中穂積3丁目1-35

TEL&FAX 072-601-0569

（自宅）茨木市穂積台12-503

ウェブサイト：<http://www.hcn.zaq.ne.jp/abiko-h/>

未曾有の大災害に直面し
出来ること・取り組んでいること
～義援金活動にご協力を～

【募金活動にご協力ありがとうございます！】

民主党茨木市支部として議員が街頭で募金のお願いをしております。多くの皆さん、ご協力ありがとうございます。頂きました募金は民主党大阪府全体でまとめて被災地にお届けいたします。

これは政治資金ではありませんので、外国籍の方もご協力いただけます。これまで

3月14日（月）～18日（金）まで、朝夕の駅頭などで募金活動を行いました。

また、茨木市役所あげての募金活動も行っております。（28日まで）市内各駅で職員・地域団体・議員が交代で朝から夕までたっております。公共施設にも募金箱を設置しております。これまで3月26日現在3461万円があつまりました。28日（月）からは援助物資を集めます（4面参照ください。）

みなさま、いつもお世話になっております。あびこ浩子です。

3月11日（金）の東北地方太平洋沖地震が、起こりました。ちょうど茨木市議会の本会議での審議中でありました。長い横揺れで、大きな地震が起こったと全員で安全確認をと、議会を中断いたしました。

昼間の時間帯であり、動いている車・電車・移動中の方々、学校などにいる子どもたち、職場での皆さん・・・どうなっているのかと気が気でありません。阪神大震災の時の恐怖を思い出し、揺れることにどうしても敏感に反応してしまいます。

テレビでの津波の様子を夜を徹して見つめながら祈るような気持ちでした。

親戚や知り合いが皆様も多くおられ、連絡が取れるのかどうかと心配されておられることでしょうか。私も10日程経ってでやっと携帯がつながった友人もいます。

今回一番心配なのが原発の放射能漏れです。この事故は今後長く人体への影響

を心配せざるを得ず、特に幼い子どもたちへの人体の影響を一番心配します。ロシアのチェルノブイリ原発事故を思い出し、あのときの周辺地域の子どもたちが病気に悩まされていたことを思い出しました。

福島県の友人から「続く余震の恐怖と原発の恐怖。沿岸部の原発から20キロ～110キロ圏内にいます。刻々と悪化のニュースを聞き、絶望感で落ち込んでいます。交通・ガソリン・灯油もだめ。私のところはライフラインがとりあえず確保でき有難いです。被災地の方々は非情の寒さが襲っています。こちらにぞくぞくと避難者がきていますが、大雪吹雪です。」やっとなつたメールでの内容です。

祈るしかないです。でも、出来ることを少しずつ頑張ります。募金に1万円入られてくださる方や中学生がおこづかいからいれてくれたりと皆さんの思いを感じます。政治よ！今こそ頑張れ！と自らを高め叱咤しています。

2011年3月定例議会報告



福祉ネットワークの再構築について

～地域拠点施設開設をモデル実施～



ハンセン病施設退所者の方々と
もちつきをしました。

<あびこ浩子の実感>

- 今こそ、地域力の出番だと実感します。
- どんなことがあっても、みんなで知恵と力を出し合える、そんな「まち」だと良いな。
- 身近なまちで防災の街づくりを進めたいですね。

本年度、茨木市では地域福祉計画を1年遅れで、他の福祉計画と共に策定をしています。(仮称)地域福祉総合計画です。

現行の地域福祉計画ができて6年、この間、地域の皆様の中で、共に支え合う「健康福祉ネットワーク」の取組が進んでまいりました。

中学校区に配置されたCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が中心となって、地域課題を民生委員さん、福祉委員さんとともに、身近な相談窓口となり、専門窓口につないだり、個別の訪問を続けながらの支援活動が展開されてきているところです。

茨木市におきましては、NPO法人等が最初に取り組始めたCSWを中心としたネットワークづくりが、市内全域に広がり、今回、「地域の身近な相談窓口」としてモデル的に沢池公民館、西公民館で「相談窓口」が設置されます。民生委員さんを中心に

窓口で相談にのっていただけるようになります。(今年7月より)生活の身近な場所に相談窓口のあることは、わざわざ市役所まで行かなくても済むと言う便利さやこれまで民生委員さんにお電話したりお家まで伺って相談したりということから、窓口があることで気軽に相談できる強みが増えます。

また、民生委員さん中心に地域に出向いての相談は、これまで同様にCSWさんと共に地域をささえていく体制は変わりません。また、このたび茨木市では、福祉政策課の職員2名がこの窓口相談や民生委員さんからの相談に乗る体制を整えており、CSWと福祉政策課、そして民生委員さん、福祉委員さんなどがより強固なサポートを地域に展開できるようになります。

皆様が安心して暮らせる相談体制が進むように願っています。

第9号



国の基金活用「新しい公共支援事業」について

平成22年度補正予算で、国に86.5億円が計上され、大阪府の3億6千万円の基金が積まれた、「新しい公共支援事業」。この活用について、質問しました。

政府が重点としてあげている「新しい公共」とは、「人を支えるという役割を『官』という人たちだけが担うのではなく、教育や子育て、街づくり、防犯、防災、医療、福祉などに地域で関わっておられる方々一人ひとりにも参加していただ

き、それを社会全体として応援しようという新しい価値観」です。鳩山首相の所信表明演説で「人との接点を失わず、共同体の一員として活動していける社会」「居場所と出番のある新しい共同体のあり方」を考えていきたいと述べられました。

NPO等と行政との協働で実施する企画にお金がつくものです。茨木市も積極的に市民活動を支援するといっています。地域課題解決を市民力で取り組むチャンスです。

3月25日「新しい公共支援事業」学習会にて、

復興支援にも使えるか。講師は大阪ボランティア協会 早瀬昇さん

応募の詳細が決まり次第茨木市HP等に掲載予定。

民主党での支援の取組

被災地への救援物資搬送ルートの確立

元気！SKYプロジェクト実行委員会（民主党対策本部）より

東北地方太平洋沖地震の被災地への救援物資の搬送ルートを民主党災害対策本部主導で確保できました。

問い合わせHPアドレス：

<http://blog.sen-syu.com/genki/>

「大きなロットでないといけない」ということはありませんので、ご活用くださいませ。

16年前の被災地・神戸から今回の被災地・茨城へ「ご恩返し」として「元気を取り戻そう」の気持ちを届けたい＝基本的な救援物資は自衛隊や行政のルートで各避難所に届きますが、避難所の生活で「あれがあれば良いのに」「これがあってホッとした」という経験を持つ神戸から神戸＝茨城のルートをもつスカイマーク航空と神戸市のご協力で毎日きめ細かな救援物資を届けます。

■実行委員・協力団体募集しています。

受付：向山好一事務所 078-578-3010

森山浩行事務所 072-233-8188

物資のリクエストの多い品目

衛生用品・子ども用品・食品は新品・未使用でお願いします。できるだけ30cm×30cm×40cmの箱に入るものでお願いいたします。

★資材系

ガソリン携行缶、ポリタンク、タンク（200ℓ～500ℓ）ポンプ、ホース、ハンマー、段ボール、透明ゴミ袋、ビニールひも、軍手、バケツ、履物（男女両方、サイズも色々）はさみ、紙など文具。

★衛生用品

女性下着、生理用品、おむつ（S・M・L・LL・ビッグサイズのニーズが高い）おしりふき、粉ミルク、粉ミルク用水、離乳食、哺乳瓶、消毒薬、臭い消し、トイレトペーパー、ティッシュ、ウエットティッシュ、マスク、タオル、歯ブラシ、コンタクトレンズ用品、割り箸、紙皿、サラップ

★食品（水を扱わない食品のニーズが高い）

缶詰、野菜ジュース、無洗米、もち、ソーセージ、おかし、チョコレート

